

原因不明の歯の痛み 不適切な治療が発端

今回のケース

7年前に日本で神経を抜いた奥歯が、硬い物をかむと痛みます。歯茎も腫れています。

症状	根管治療後の歯痛		
年齢	50代前半	性別	女性(日本人)



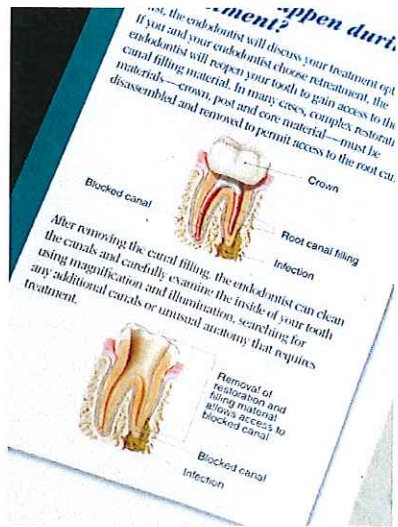
ロバート・D・リップシャッツ先生
(Robert D. Lipschutz, DMD)
歯科医師。イリノイ大学心理学部、ペンシルベニア大学歯学部卒業。コロンビア大学病院勤務などを経て独立。専門は一般歯科、審美歯科、神経治療など。患者には日本人も多く、予防歯科啓蒙に力を入れる。米国歯科医師会、ニューヨーク州歯科医師会会員など。

症状

右上奥歯が虫歯になったため、7年前に日本で神経を抜く根管治療(英語でルートキャナルセラピー)を受けた。最近、硬い物をかむとこの歯が痛み、歯茎も腫れているという。

診断

根管治療とは、歯の根(奥歯は1本につき複数ある)の中(根管)を通る神経を取り除き、根管を洗浄、無菌状態にした後で特殊な薬剤を充填(じゅうてん)



この女性には、患部のレントゲン写真と、米国歯内療法学会が作成した根管治療を説明するイラスト(写真)を見せながら、痛みの原因と治療法を説明した。

し、密封する治療法のこと。リップシャッツ先生によると、治療後に適切なケアを続けられ、神経がある歯と同じくらい長持ちさせることができる。

治療

まず、リップシャッツ歯科医院の根管治療専門医師が担当し、問題の歯の根管治療をやり直した。最初に、クラウンと、その土台となるコアとポスト(根管に入れる「支柱」)を外し、根管に充填されていた薬剤を除去。根管内を洗浄、無菌状態にした上で、薬剤を詰め直し、仮の詰め物でふたをした。

この女性には、クラウンを傷つけないデンタルフロスの方法など、日常の歯のケアを指導した。女性は、6カ月ごとの定期検診とクリーニングを続けている。(大村智子)

患部レントゲン検査の結果、問題の右上奥歯には4本の根があったが、そのうち1本の根管が見落とされ、未治療だった。また、根管治療後に作ったクラウン(かぶせ物)と歯茎との間に隙間ができており、そこから侵入した細菌に根管が感染し、根管の先に膿の袋ができていた。

この女性のように、不適切な治療が原因で後々問題になるケースは、特に日本で根管治療を受けた場合に珍しくないという。リップシャッツ先生はその理

Information
Robert D. Lipschutz, DMD, PC
57 W. 57th St., Suite 705
(bet. 5th & 6th Aves.)
TEL: 212-752-3001
www.dr Lipschutz.com